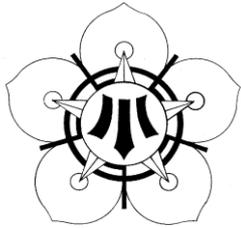


地域と家庭と学校が一つになって子供を育む…それが“チーム七小”です！



福生第七小学校ホームページ

<http://fussa-7e.hs.plala.or.jp/>

くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和4年度 学校だより
発行責任者
校長 山岸 史子

所在地
福生市北田園一丁目1番地1

令和 5年3月1日 発行

自分の成長を感じて

校長 山岸 史子

毎年感じることはありませんが、年を重ねるごとに1年間の過行く速さに驚かされます。しかし、子どもたちにとっては、この「1年間」というのは6年生でさえこれまでの人生の十二分の一、1年生に至ってはなんと七分の一。その1年が占める割合は高く、長くてかなりの重みがあるものなのです。

3学期に入り、休み時間を利用して、卒業していく6年生と話をする時間を作ってもらいました。普段ゆっくりと自身のことを話してもらうことはなかなかないので、私にとってはとても楽しい時間でした。校長室にノックをし、たった一人で入って話をする面談です。時間にしたら5分程度ですが、程よい緊張感と親近感の中で、様々な今の思いを聞かせることができました。

その中で、「この6年間で、頑張ったな、成長したなと思うこと」を教えてもらいました。6年生にとってはこれまでの人生の半分の期間を、振り返ってもらったのです。

すると、こんな答えが返ってきました。

- ・算数が苦手だったけれど、計算の練習を頑張ってできるようになった。
- ・漢字や鉄棒など、できなかったことを何度も何度も練習してできるようになった。
- ・給食が食べきれなかったけれど、今では完食できるようになった。
- ・人前で話すことができなかったけれど、手を挙げて発表することもできるようになった。
- ・忘れ物が多かったけれど、今ではほとんど忘れずに用意できるようになった。
- ・習い事をずっと続けて、上手になった。
- ・あきらめないで最後まで頑張り抜くことができるようになった。
- ・よくけんかしていた友達を理解できるようになり、ぶつかることが少なくなった。
- ・小さい頃は我慢しすぎて自分の思うことがうまく伝えられなかったけれど、今は自分の意志で決めることができるようになってきた。
- ・小さいときは自分のことしか見えてなくて、みんなに嫌な思いをさせていたけど、人のことを考えて相手に合わせられるようになってきた。

自分で自分の成長を認められることは、それ自体が大きな成長です。兎角、人からの評価を気にして、認められるかどうか、これで大丈夫なのかどうかを気にしやすいくものです。自分で自分の弱さも理解し受けとめ、発見した課題を自分の意志で解決させていく力が、この先の人生を歩んでいく子どもたちに必要な「生きる力」だと思います。

各々の話を聴きながら、6年生の子どもたちの成長を感じ、幸せな時間を過ごしました。

6年生以外の皆さんはどうでしょうか。そして、大人の私たちはどうでしょうか。日々、成長する子どもたちに負けぬよう、私たちも、自分の成長を感じられる生き方をしたいものです。それはきっと、子どもたちにとって、生き方モデルとなるのではないのでしょうか。